

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第73号

2015年2月6日

<http://www.australianstudies.jp/>

## 1. 2015年度総会・全国研究大会概要

日時：2015年6月13日（土）・14日（日）

会場：慶應義塾大学三田キャンパス（〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45）

※会場アクセス <http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

担当：塩原良和（慶應義塾大学）

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

### □第1日目 6月13日（土）

10:00 理事会

13:30 開催セレモニー

14:00 特別講演

15:00 シンポジウム1：

#### “Politics of Australia 2015: What Japan Can Learn”

コーディネータ：杉田弘也（神奈川大学）

基調報告：Dr. Tim Soutphommasane (Race Discrimination Commissioner of the Human Rights Commission)

討論者：Dr. Nick Economou (Monash University)

Dr. Anika Gauja (University of Sydney)

18:00 懇親会

### □第2日目 6月14日（日）

10:00 一般個別研究報告

12:00 理事会

13:15 総会

14:00 シンポジウム2：

#### 「新自由主義時代のオーストラリアにおける差異／境界と社会統合」

コーディネータ：塩原良和（慶應義塾大学）

報告者：津田博司（筑波大学）

栗田梨津子（国立民族学博物館）

藤田智子（日本学術振興会特別研究員 PD）

討論者：関根政美（慶應義塾大学）

17:00 閉会挨拶

## 2. 第9期第2回理事会

日時：2014年12月6日（土）15:00-17:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 研究室棟地下1階第3会議室

出席者：青木麻衣子、福嶋輝彦、花井清人、飯笹佐代子、石井由香、川口章、栗山直子、村上雄一、佐和田敬司、塩原良和、安田純子（以上、理事、ABC 順）、白江英司、多田稔（以上監事）、委任状4通

### 【報告】

1. 2014年7月以降の学会活動について、川口理事より報告があった。

2. 慶應義塾大学で開催される2015年度全国大会の概要が、川口理事より報告された。
3. 『オーストラリア研究』第28号の編集方針が、飯笹理事より報告された。
4. 会計の現状について、塩原理事より報告があった。
5. 大学評価・学位授与機構専門委員に本学会員2名を推薦したことが、福嶋理事より報告された。

#### 【議題】

1. 第3回理事会議事録が確認された
2. 2016年度全国大会を和歌山大学で開催することが承認された。
3. 優秀論文賞選考委員を6名の会員に委嘱することが決定された。
4. 豪日交流基金「サー・ニール・カリー奨学金」の継続と内容の一部見直しについての要望を、豪日交流基金に伝えることが承認された。
5. 7名の入会と2名の退会が承認された。
6. 今後の国際交流について、以下のことが承認された。
  - ・本学会代表を国際学会等に派遣する場合は、学会から交通費や宿泊費を支給することができる。
  - ・2019年度（学会創立30周年）に国際学会を開催する方向で検討を進める。
  - ・学会ホームページの英語表記について検討する。
7. 次期（第10期）理事会の構成メンバーについて、理事会経験者も含めて人選を進めていくことが承認された。

### 3. 第9期（2013年6月～2016年6月） 役員一覧

[代表理事] 福嶋輝彦	[関東例会担当理事] 花井清人、佐和田敬司
[副代表理事（総務）] 川口章	[関西例会担当理事] 栗山直子、吉田道代
[会計担当理事] 塩原良和	[副代表理事（編集）] 飯笹佐代子
[広報・会報担当理事] 村上雄一	[学会誌担当理事] 安田純子、岡本哲明、青木麻衣子
[副代表理事（企画）] 永野隆行	[HP担当理事] 川口章、石井由香
[全国研究大会担当理事] 村上雄一	[監事] 白江英司、多田稔
[プロジェクト担当理事] 佐和田敬司、馬淵仁、 三宅眞理	[本部事務局員関東部会担当] 山内由理子
	[本部事務局員会報・全国研究大会担当] 濱野健

### 4. 第20回地域研究会（関西例会）のお知らせ（共催：追手門大学オーストラリア研究所）

**\*非会員の方も参加できます。**

日時：2015年3月7日（土）14:00-17:00

場所：追手門学院大学5号館8階大会議室

連絡先：追手門学院大学オーストラリア研究所（大阪府茨木市西安威2-1-15）

Tel: 072-641-9667 Fax: 072-643-9476

Email: [Mayumi.Tanoue.57@otemon.ac.jp](mailto:Mayumi.Tanoue.57@otemon.ac.jp)

ホームページ: <http://www.otemon.ac.jp/cas/>

交通：JR 茨木駅西口から南へ徒歩7分「イオン茨木ショッピングセンター」横、または阪急茨木市駅西口から追手門学院大学スクールバス13:10発をご利用ください。

**報告①：「オーストラリア先住民族アボリジニの文化、伝統的知識の保護と知的財産権—民族自決権の保障の観点からみたオーストラリアの現状—」**

宮崎 紗織（大阪大学大学院 国際公共政策研究科 博士後期課程）

報告内容：民族のアイデンティティーと深いつながりのある文化及び伝統的知識を含む文化資源の保護に関し、現在オーストラリアではどのような政策がとられているのか、先住民族アボリジニの事例を中心に紹介する。また、国際人権法上の民族自決権の保障という観点に照らし、特に知的財産権分野において当該権利が同国ではどの程度実現されているのかにつき分析を試みる。

## 報告②：「写真を通してみるオーストラリアにおける日本民間抑留」

津田 睦美（成安造形大学准教授 写真作家）

報告内容：写真（画像資料）、モノ、言葉（語りや手記）などを使って視覚化した第二次世界大戦時のニューカレドニア日本人移民の体験を、実際に開催した展覧会や著作を題材にして紹介する。

### 5. 第19回地域研究会（関西例会・追手門学院大学オーストラリア研究所共催）報告

南出真助

去る2014年10月18日（土）14:00～17:00に追手門学院大学で行われた。全体テーマは「西オーストラリア州ブルームにおける日系移民社会の形成」。追手門学院大学オーストラリア研究所が報告者をオーストラリアから招聘したため、共催の形をとった。報告者のケイト・ピアス氏は、日系移民の歴史を描いた『第二の故郷』で有名なノリン・ジョーンズ氏に師事し、その後継者としてジョーンズ氏が収集した資料の整理と分析にあたってきた。ピアス氏は今回2本の発表を行った。①“Whitewash: Anglo-Australian bias in the accounts of the 1920 Broome race riots”(1920年ブルーム：「人種暴動」記録にみるイギリス系オーストラリア人の偏見)。ピアス氏によれば、日本人がティモール人を襲ったとして一方的に裁かれた事件は、日本語による記録では必ずしもそうではなく、白人の偏見が介在していたことが判明した。②“Envisioning Meiji Australia: the portrayal of self-identity in the Yamamoto family album of Broome c1896-1914”(1896-1914年ブルームの山本家アルバムにみる自己アイデンティティ)。商人として移住した山本家や三瀬家に伝わる古写真から、当時の移民社会における日本人の地位に言及する内容であった。後半はピアス氏の発表に連動する形で、『第二の故郷』の翻訳者としても知られる北條正司氏（高知大学）から「ノリン・ジョーンズ氏が描く日本人像」と題された話題提供がなされた。前後半のいずれも、当時の現地情報に即した実証的な内容であり、写真や書類の資料的価値も高く、3時間の短さが残念に感じられるほど多くの質問が交わされた。参加者23名。

### 6. 第9回地域研究会（関東例会・成城大学経済研究所共催）報告

花井清人

2014年11月15日（土）午後2時から5時まで、成城大学において開催された。テーマは「オーストラリアの財政・政府間財政関係」、成城大学経済研究所との共催で行われた。参加者は19名。第一報告は、加藤慶一氏（国立国会図書館 調査及び立法考査局財政金融課）「オーストラリアとニュージーランドの税・給付制度一累進度および再分配効果と効率性等との相克」。例会座長は花井清人（成城大学経済学部教授）が担当した。報告では、オーストラリアとニュージーランドの税・給付制度の国際比較・類型化、歴史的変遷の視点から考察が行われ、両国での相対的な規模の小ささにもかかわらず、全体として高い累進度を実現する税・給付制度の特徴が明らかにされた。合わせて公平性を重視する両国の税・給付制度は、近年、効率性との相克に直面している点が、改革に向けた近年のレポートを踏まえて指摘された。第二報告は、橋都由加子氏（東京大学大学院経済学研究科特任助教）「オーストラリアにおける財政再建—政府間財政の視点から—」。報告では、1980年代から90年代にかけてオーストラリアで実現された財政再建の理由を、政府間財政の視点から考察し、財政赤字削減を目指す連邦の取り組みの他、経済改革での州政府の協力などの影響が大きかった点を明らかにした。参加者からは、両報告に対して、オーストラリアの国民の政治的レスポンスの特徴の他、日本の財政へのレッスンなどに関する多くの質問があり、有意義な情報交換を行うことができた。

## 7. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2014年5月に年会費を納入しても、2013年度未払いの場合、それは2013年度の会費となります。すなわち、2014年度は未納ということになります。また2012、2013年度未払いの場合、2012年度分の会費納入になります。

### <2013年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2012年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2014年3月発行、第27号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

## 8. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次の29号の締め切りは2015年8月31日です。29号・30号に掲載された論文は「第2回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、奮って投稿してください。投稿要領については、学会ウェブサイト、もしくは28号掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2015年10月30日です。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだCDもしくはUSB)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先： 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当  
TEL : 03-5937-0249 FAX : 03-3368-2822 Email : [asaj-post@bunken.co.jp](mailto:asaj-post@bunken.co.jp)

### 【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当 TEL :  
03-5937-0249 FAX : 03-3368-2822 Email : [asaj-post@bunken.co.jp](mailto:asaj-post@bunken.co.jp)

### 【オーストラリア学会事務局】

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 同志社大学政策学部 川口章研究室気付  
TEL : 075-251-3469 E-mail: [akawaguc@mail.doshisha.ac.jp](mailto:akawaguc@mail.doshisha.ac.jp)  
会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当：村上雄一(福島大学) / 編集協力：濱野健(北九州市立大学)]